

三十一文字で切り取る情景

短歌の魅力に

触れてみませんか

短歌のふるさと塩尻

塩尻は、太田水穂や若山喜志子などが生まれた地であるとともに、若山牧水や島木赤彦などが関わるなど、明治・大正期に活躍した歌人のゆかりの地であることから、「近代短歌のふるさと」と呼ばれています。

市内には、広丘にある歌碑公園をはじめとした多くの場所に歌碑が存在しています。また塩尻短歌館では、塩尻ゆかりの歌人たちの遺品や資料を展示するなど、かつての歌人たちの功績をたたえ、後世に伝えていくとしています。

市内の小・中学校や高校では短歌作りを授業に取り入れているほか、地区の公民館や短歌サークルなどによる講座が開催されたり、学校の教員に短歌指導の研修を行ったりするなど、塩尻の文化である短歌に触れる機会はとても身近にあります。

本市では、歌人たちをたたえ、地

域で育んできた短歌の文化を継承し、日本語の素晴らしさを全国に発信するため、昭和62年から「全国短歌フォーラムin塩尻」を開催しています。また、短歌の歌評や添削、トークライブが一緒になった「詠み会」を開催するなど、短歌をもっと多くの人により身近に楽しんでもらうための催しなども企画しています。

まずは気軽に始めてみよう

短歌の歴史は古く、7世紀後半には詩の形として完成していたといわれ、以降、明治、昭和初期の近代を経て現在に至るまで、変化をしながら受け継がれています。

皆さんは短歌に対してどのようなイメージがあるでしょうか。堅苦しくて難しいなどと思うかもしれません。しかし現代の短歌は身近な言葉で詠まれ、分かりやすいものも数多くあります。また、ツイッターなどのコミュニケーションツールで短文

塩尻はかつて多くの歌人を輩出した「近代短歌のふるさと」です。難しく考えずに、気軽に短歌に親しんでみませんか。

問 全国短歌フォーラム実行委員会（社会教育課内）
直 02633-0903

身近な言葉で気軽に短歌を詠んでみませんか

じいちゃんのとれたてスイカ食べたいな畑のぞくとスイカちっさい

第三十一回全国短歌フォーラムin塩尻 学生の部作品

小池 菜々美さん（小学生）

「好きな色青だったよね？」って君が言う途端に地球の青が増しくて

第三十一回全国短歌フォーラムin塩尻 学生の部作品

秀島 由里子さん（高校生）

海を背に仲間四人で肩を組みポーズしている薄れた写真

詠み会in塩尻

作品

フルーツポンチ 村上 健志さん（芸人）

サバンの象のうんこよ聞いてくれだるいせつないこわいさみしい

穂村 弘さん（歌人）

全国短歌フォーラム in塩尻

■日時 **9月29日**(土)
正午～午後4時(午前10時開場)

■場所 レザンホール大ホール

※申し込み、入場料は不要です。

■主な内容

- 投稿歌選評
- 表彰式
- トークイベント(下記参照)

■投稿歌選者



馬場 あき子さん
(歌人、文芸評論家)



佐木 幸綱さん
(歌人、早稲田大学名誉教授)



永田 和宏さん
(歌人、京都大学名誉教授)

トークイベント

穂村弘さんと、^{ちばな}知花くららさんによるトークイベントです。
※詳細は、短歌フォーラムホームページにて随時更新予定です。

■司会



穂村 弘さん
(歌人)

短歌のみならずエッセイや評論など幅広く活躍中。歌集に『シンジゲート』など著書多数。

■ゲスト



知花 くららさん
(モデル)

ファッション誌のほか、CMなど多数出演。独学で短歌を始め、第63回角川短歌賞の佳作に入選。



岩崎 雄大さん
(埼玉県和光市)

数年前に目の病気をし、身の回りの出来事や情景を大事にしようと思ったことが短歌を始めたきっかけです。

短歌作りは、定型に収めようとして、詠もうと思っていたことからずれてしまうこともあり、そのたびに悩むこともあります。しかし、言葉に責任を持つという意味では大切なプロセスだと思っています。これからも、よく悩みながら歌を作っていきたいと思っています。

身の回りの出来事を大事に

窓際で
ヘルマン・ヘッセ
読んでいる
春のクラゲのような
新顔

第31回全国短歌フォーラムin塩尻
最優秀賞受賞作品

の表現に慣れている若い人たちの間の一部では短歌作りが広がりを見せているなど、短歌は難しいものではないありません。自分の見た情景や思いをそのまま「五・七・五・七・七」の31文字で表現するだけで簡単に作る事ができます。文学的な表現などに拘らず、まずは気軽にしゃべり言葉で楽しんでみてはいかがですか。

作るだけじゃない短歌の楽しみ

短歌の楽しみ方は作るだけではなく、その作品を鑑賞する楽しみもあ

ります。その短歌で詠まれている言葉から情景を想像し、自分の体験に当てはめてみたり、同じ情景を別の言葉で表現してみたり。31文字で短く表現された言葉から想像を膨らませてみると、日本語の奥深さ、表現の豊かさも感じられ、また短歌の面白さが広がります。

今まで短歌に興味がなかった人も、ぜひ一度その魅力に触れてみませんか。短歌を通して、何気ない日常の風景に新しい感動が生まれるかもしれません。

ホームページやTwitterで「全国短歌フォーラム」の情報や過去の投稿作品の紹介をしています。

- 🌐 <https://tanka.shiojiri.com/> (ホームページ)
- 🌐 <https://twitter.com/tankashiojiri> (Twitter)



(ホームページ)



(Twitter)